

02. 出発から小樽上陸、余市岳へ

●8月1日(月)～ 8月2日(火) 出発

・今年も例年通り夜中の10時半に朋子に見送られて家を出発した。
・宮ヶ瀬を通過して相模湖ICから高速に乗り、圏央道を鶴ヶ島で関越道に入り、一路新潟をめざして車を走らせる。真夏の夜は涼しく、車も少ないので順調に走行できる。途中何回も休んで仮眠しながらのんびり走り、新潟亀田ICを5時過ぎに下りてフェリーの埠頭へ向かう。これも例年通り。埠頭にはまだ朝早いので車も少なく、小樽行きの列の7台目についた。途中雨に降られたりしたがいまはすっかり上がっていて、薄日も差し雨の心配はなさそうだ。

9時半の乗船開始なのでそれまで時間を潰さなければならない。まずフェリーターミナルのレストランで朝食。モーニングセット750円、これも毎年の定番コースだ。

・車がどんどん増えていっぱいになってきた。夏休みだからだろうか子ども連れの家族が多い。例年は6月から7月に出発しているので、熟年夫婦や山旅族が多くて待ち時間にいろいろ話が弾んだが、今年は家族旅行が多いため、車どうしの会話が全く無い。

・予定通り9時半に乗船開始。S寝台のJ-97室に荷物を置いて、すぐに風呂へと急いだ。思ったより空いていて拍子抜け、ゆっくり入浴できた。やはり家族連れが多いので風呂へ入る人が少ないのだろうか。

デッキに出て風呂上りのビールを飲みながら出航のときを待つ。

10時30分ぴったりに船は手を振って見送る人たちを残して岩壁を離れた。いよいよ今年の旅が始まった。空はすっかり晴れ渡り日差しが暑い。幸先がいいぞ！

・今年の北海道山紀行もとうとう幕を開けた。何かふるさとへ帰るみたいで嬉しくなってきた。デッキを渡る風で風呂上りのビールが気持ちよく効いてすっかり良い気分。

J-97室へ戻ってバツタリ、夜行の疲れも出て、熟睡に入った。



・14時に目覚めた。船首にある喫煙室でコーヒーにサンドイッチで遅めの昼食をとりながら日記を書き始めた。外は陽が差していて海は穏やか、全く揺れず滑るように快走している。船内を見て回ったが意外に船客も少なくすいているようだ。

サロンでジャグリングショーが始まったので、子供たちに混じって見学した。小林智裕という青年で、その筋では有名らしくなかなか面白かった。(帰ってから調べたら日本一のジャグラーだとか)

・6時半ごろ水平線に沈み行く夕日を見ながらビールを飲んで夕食をとり、8時前には明日から始まる北海道山紀行の夢を見るべく寝台に身を沈めた。



● 8月3日(水) 余市岳(1488m) 快晴

・昨年登った札幌岳で、北の方に雪を被って大きく聳える余市岳を見て、ぜひ登ってみたいと思い、今年の最初の山に選んだ。

・4時30分、フェリーは定刻どおり快晴の小樽港に接岸した。上陸後、登山口のあるキロロリゾートへの道を通った。6時前にキロロリゾートの一番奥にある登山口に到着。天気快晴、気温17℃快適なコンディションだ。朝食をとってから山支度に整えて6時10分に出発した。

ゴンドラに乗って一気に高度を稼ぐ楽なコースもあるが、早朝でゴンドラが運転していないため、下からの登山道を歩いた。アプローチはゲートが閉められた林道を延々約1時間(4km)も歩きやっとスキー場に到着、ここから本当の登山道が始まる。といってもスキー場ゲレンデの真ん中で林道が途切れ、どこに登山口があるか



分からない。あまり歩いていないのだろう、ゲレンデの芝生に登山口までの踏み跡が付いていない。誰も居ないので聞くわけにもいかず、探すこと数分、やっと林の中に登山口を見つけた。よく見ると立派なゲートが立っているが、木が生い茂っていて隠れて見えなかった。

・ここからは赤川沢沿いにしっかりした登山道が付いている。しばらく登ると登山道は沢筋を離れ背丈より高い笹原に付けられた道となった。木陰も何も無いので真夏の太陽をまともに受けて歩くことになり、笹に埋もれているので景色は見えぬ風も通らず、草いきれの猛暑で熱中症状。尾根を登りきりゴンドラルートから来る道と合流する見晴台で、やっと笹原が切れて視界が開け、余市岳が大きく聳えて見えた。詰めの登りは真夏の太陽をまともに受けながらの急坂、熱中症を心配しながら一気に登ると観音像のケルン。大展望が開けた。ここからほぼ平坦な道を 300m くらい歩いて山頂に着いた。

・山頂付近は広々とした平地でアキノキリンソウやエゾシオガマなど夏の花が一面に咲く。展望も 180 度。目の前には蝦夷富士羊蹄山がでっかく聳えていてその右に無意根山、左に明後日登る予定の尻別岳、南の方には昨年登った札幌岳や恵庭岳など々と素晴らしい眺めだ。

山頂には私一人、展望を十分楽しんでからもとの道に戻って下山した。

・とにかく暑い山だった。花もあまり無く、あってもみんな花が終わって実になっていた（タケシマラン、マイズルソウ、ツバメオモトなど）。

*この山は、延々と 4km もの林道を歩き、何も見えない笹原の登山道を登るより、ゴンドラを利用して一気に高度を稼いだほうが利口だと思った。

ただシーズンの休日はゴンドラを利用して登る人で結構混雑しているようだ。



・13時に駐車場に着いてからここでゆっくり昼食をとり、キロロリゾートのホテル・ピアノに寄ってみた。ここは10数年前にも前に、恵子を連れて家族3人で数泊した思い出の場所だが、全く記憶が出てこなかった。



・今日の宿泊予定地のニセコへ向けて国道5号線をぶっ飛ばした。なにしろ今日余市岳で流した汗をニセコの綺羅の湯で洗い流したい。やっと辿り着いた綺羅の湯、いやに車が少ないなと思ったらなんと定休日、冗談でしょう！ 急遽今来た道を引き返し、羊蹄山の裾野をぐるっと回って京極温泉へ向かった。やっと温泉に入ることが出来た、いい湯だ。ということで今日の宿泊地は予定変更して道の駅「京極」になった。以前泊った時は閑散としていた京極だが、今日は夏休みだからだろうか結構人が多く車もいっぱい止まっている。ここは湧水の地でとにかく水が冷たい。下着を洗濯したら手が切れそうに冷たかったが、ビールが良く冷えて夕食が実に旨かった。今日のはのどが渴いたのでビールを3缶も空けてしまった。

・隣に止まった札幌のご夫婦は10年前に厚木の温水から越してきたそうで、湘南ナンバーを見て懐かしそうに話しかけてきた。

・夕食が終わり6時過ぎ、まだ明るく空は快晴。初日の夜は無事幕が下りた。